

COVID-19による学生の留学に対する意識変化

－大学生への調査を通して－

岩 城 奈 巳*
巽 洋 子**

＜要 旨＞

新型コロナウイルス（COVID-19）の世界的な感染拡大は大学生の留学事情に大きな影を落としている。未だ留学交流再開の目処が立たない状況は各国のオンライン授業を加速させ、オンライン授業は国際教育の在り方の一つとなろうとしている。本稿では、留学経験者や留学に興味を持つ学生 211 名を対象に、1) コロナ禍における留学への意識の変化、2) 進化が進むオンライン授業の是非、さらに留学の代替案として今後台頭が予想される 3) 国内での共修授業や留学類似体験、これら3つに焦点を当て、このパンデミックによって学生の留学に対する意識がどのように変化したのか調査した。結果、回答した65.4%の学生がパンデミック収束後に留学を希望しており、希望しない学生（15.1%）を遙かに上回ったことで大半の学生の留学に対するモチベーションは下がっていないことが判明した。オンライン授業の是非については、語学力やディスカッション能力向上の面では支持されたものの、実際に渡航する留学とは得られる物は異なると回答した学生が89.6%を占めた。一方で、国内で留学生と共に対面で学ぶ授業についてはある程度評価をしており、学生はオンライン授業より対面での交流を希望していることも判明した。

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、本学から各国に留学中だった学生、留学予定だった学生、そして今後留学をしたいと望んでいた

*名古屋大学国際機構国際教育交流センター・教授

**名古屋大学国際機構国際教育交流センター・特任助教

学生に大きな影響を与えている。感染拡大が始まった2020年1月以降、各国に留学していた学生は夢半ばで自国への帰国を余儀なくされた。本学においても、海外渡航危険度（感染症）レベルが引き上げられて以降、留学中の学生に帰国指示を出し、3月に実施予定であった海外研修も中止とせざるを得なかった。さらに夏以降に渡航を予定していた一学年間、一学期間の交換留学も中止が決定されたため、留学に内定していた学生は今後の進路も含めた留学計画の見直しが求められている。このパンデミック収束の見通しが立たない状況下で来年度以降の留学を希望する学生は準備を進めていかなければならず、すでに別の道を模索する学生も出てきている。一方で、受け入れ予定であった交換留学生も必然的に渡日が中止となり、さらに母国に一時帰国し日本に再入国できない状況に置かれている正規留学生も多くいるため、学内での国際交流もままならない状況である。

当然、世界各国ともに状況は同じで、渡航していた学生の自国への呼び戻し、入学予定だった留学生が入国できないケースなど大学は対応に追われ、2月以降は次々と大学を閉鎖し、オンライン授業に切り替える措置がとられた（Witze 2020）。オンライン化が進んでいる欧米各国を含め、他のアジア諸国においても問題無く対面授業から遠隔授業に切り替えたところが多く、本学から海外へ留学していた8割以上の学生が緊急帰国後も継続してオンラインでの授業を受けることを選択し、留学先大学の単位を取得することができた。ただ、コロナ禍において遠隔授業が加速する中、オンライン教育の在り方についての賛否の議論も始まっている。対面授業と比較して学習の限界がある、得られる知識がオンラインと対面とは異なるのではないかと疑問視する声、さらに高額な授業料に対して見合った教育を受けられていない等の不満も多くあがっており、米国の調査では93%の学生がオンラインであれば授業料を下げるべきだという報告もある（Hess 2020）。一方で、このようなオンラインでの授業提供は暫定的なものでは終わらず、パンデミック収束後も継続し、大学そのものの在り方をすでに変えたとの見方もある（International Association of Universities 2020）。

この未曾有のできごとは今後の留学、国際交流、ひいては大学生の学生生活全般にどのような影響を与えているのだろうか。本稿では日本人学生を対象に、1) コロナ禍での留学への意識の変化、2) 進化が進むオンライン授業の是非、そして現時点で収束が見えないことから留学の代替案とし

て今後取り入れることも予想される 3) 国内での留学類似体験、これら 3 つに焦点を当て調査を実施した結果を報告する。

2. 調査概要

2.1 回答学生の基本情報

本アンケートは、本学にて留学を希望する学生が活用する海外留学室配信メーリングリストの登録者、海外留学室の専任教員が開講する全学教養科目の履修者、異文化理解サークルなどに所属している学生を主な対象として2020年7月上旬から末まで実施し、211名の学生から回答を得た。学生の学年、学部・研究科の内訳は附表1,2の通りであり、男女比は95(45%):112(53.1%)であった。また、海外滞在経験の有無(附表3)では家族旅行や海外姉妹都市訪問、ホームステイなど様々な形で海外経験者が95%を占め、その中でも高校・大学で留学経験のある学生が186名いた(附表4)。さらに冒頭で留学への興味の有無について聞いたところ、はい190名(90%)、いいえ6名(2.8%)、どちらともいえない15名(7.1%)であったため、このアンケート回答者の9割が留学に興味がある学生であることを念頭に回答結果を紐解いていく。

2.2 質問項目・回答方法

学生にとって、新型コロナウイルスの影響で今後の留学に対して、1) どのような意識変化があったか、2) 急速に進んだオンライン授業、さらに3) 国内での留学類似体験に関する以下14問の質問をした。回答方法は5件法(1. とてもそう思う、2. そう思う、3. どちらでもない、4. そう思わない、5. 全く思わない)を採用し、さらにQ4、Q5、Q6、Q11.に関しては選択した理由を必須として書くよう自由記述欄を設けた。

- Q1. 留学に興味はありますか、留学したいと思いますか
- Q2. 海外滞在経験はありますか
- Q3. 留学をしたことはありますか
- Q4. COVID-19の影響で今後の留学を含む海外渡航を希望する気持ちに変化はありましたか
- Q5. COVID-19収束後に留学に行きたいと思っていますか(計画していますか)

- Q6. 海外大学が提供しているオンライン授業やディスカッションに参加する留学と現地に渡航する留学では得られる物は同じだと思いますか
- Q7. 海外大学が提供しているオンライン授業やディスカッションに参加することで専門知識が身につくと思いますか
- Q8. 海外大学が提供しているオンライン授業やディスカッションに参加することで語学力が身につくと思いますか
- Q9. 海外大学が提供しているオンライン授業やディスカッションに参加することで異文化適応能力が身につくと思いますか
- Q10. 国内で留学生と日本人学生と一緒にグループワークやディスカッションに取組み学ぶ共修や、短期間の共同生活を送るインターナショナルキャンプのような留学の類似体験が近年開催されています。名古屋大学内で疑似体験の機会があれば参加したいと思いますか
- Q11. 国内での留学類似体験と現地に渡航する留学では得られる物は同じだと思いますか
- Q12. 国内での留学類似体験に参加することで専門知識が身につくと思いますか
- Q13. 国内での留学類似体験に参加することで語学力が身につくと思いますか
- Q14. 国内での留学類似体験に参加することで異文化適応能力が身につくと思いますか

3. 調査結果

3.1 留学に対する意識の変化に関する調査結果

新型コロナウイルスは、学生個々の今後の留学に対する意識にどのような変化を及ぼしたのかを探るため、ここではQ4「COVID-19の影響で今後の留学を含む海外渡航を希望する気持ちに変化はありましたか」、Q5「COVID-19収束後に留学に行きたいと思っていますか（計画していますか）」の回答結果を紹介し、自由記述とともに考察する。

表 1 COVID-19 の影響で今後の留学を含む海外渡航を希望する気持ちに変化はありましたか (Q4.)

	人数	%
とても変化した	39	18.5
少し変化した	77	36.5
どちらともいえない	24	11.4
あまり変化していない	44	20.9
全く変化していない	27	12.8
合計	211	100.0

出所：筆者作成

以下、学生からの自由記述回答を紹介する（下線筆者）。

「とても変化した」

- ・今の段階では、長時間飛行機に乗ることは避けたいことと、留学するにしても、感染症対策をどのくらいしても安全ということはないと思うから
- ・言語が通じ衛生面が比較的良いとされている日本国内でさえ不安を感じるが、海外ではそのような安心材料がほぼないため。また身近な人に心配をかけたくないため。
- ・短期留学を考えていたが、諦めたため残念に思っている
- ・交換留学が中止になり、学生中に留学することを諦めているから

「少し変化した」

- ・留学に行きたいと考えていたが、就活への不安から留学に行くのは難しいと感じたから
- ・留学時期がずれると卒業後の進路選択に大きく影響するから
- ・来年夏から長期留学に行きたいと思っていたが、いつコロナが収束するかも分からず留学が決まっても中止になるかもしれないと思うと、モチベーションが保てなくなってしまった
- ・大学で留学したいと思っていたが、留学ができる状況になる目処が立たない中で、だんだんとしていたい気持ちも薄れてしまった気がする

「どちらともいえない」

- ・留学したいとは思っているものの、現実的に難しく、この状況が自身の修了までに改善するのかが分からず、足踏みしている
- ・行きたい気持ちに変わりはないが、今ではないと考えるようになった
- ・留学をしたいと思う気持ちはまだあるが、できないという状況にある

「あまり変化していない」

- ・短期留学を通して海外の研究施設や学生を知り、その環境に身を置いてみたいと考えていて、それは現地に行かなければ叶わないため
- ・行きたいという気持ちは変わらないが、本当に行けるかどうかという不安は少しある
- ・時期が遅れても行きたいと考えているから
- ・留学に行く目的は、海外の文化や価値観、その他いろいろな事柄が日本のそれらとどう違うのかが気になるからであり、新型コロナウイルスの有無でそれは変わらないから
- ・もちろん現在は渡航できないが、海外で学びたいという気持ちに変化はなかったため

「全く変化していない」

- ・日本にいただけで得られる経験には限りがあると思うから
- ・留学を大学時代の目標にしてきたから
- ・留学することを強く希望しているから
- ・コロナウイルスが収束したらまた以前と変わらないような国の行き来になると信じているから
- ・時期がずれただけで、行きたい思いは変わらないし、臨機応変に今は国内でできることをやろうと思ったから

気持ちが変化したと答えた学生が55%であり、変化していない・どちらともいえないと答えた学生と、気持ちが変化した学生は、半数程度ずつ存在している。気持ちの変化としては、安全・健康面を心配している、就職活動との兼ね合いで躊躇している、モチベーションを保てなくなっているという回答が目立った。一方、気持ちが変化していない学生は、留学を目標として頑張ってきた、行きたい気持ちが勝っているなど前向きな回答が多かった。

表2 収束後に留学に行きたいと思っていますか
(計画をしていますか) (Q5.)

	人数	%
強くそう思う	76	36.0
そう思う	62	29.4
どちらともいえない	41	19.4
あまりそう思わない	26	12.3
全くそう思わない	6	2.8
合計	211	100.0

出所：筆者作成

「強くそう思う」

- ・逆境に負けたくないから。小さい頃からずっと行きたいと思っていたから簡単には諦められないから
- ・短期ではなく長期で行きたいと考えている。海外での経験を将来に活かしたい
- ・新卒採用が主流となっている今の日本では、社会人になってからの留学は学生での留学よりも難しいと思うから
- ・留学へ行きたい気持ちは変わっていないので、また交換留学を目指そうと思っている

「そう思う」

- ・やはり学生の間でないときちんと期間をとって留学というのは難しいと感じたため
- ・留学への不安もあるし時期の調整もかなり厳しいが、留学をしたいという意思は変わらないため
- ・本当は交換留学が行きたいが、自分のやりたいことと天秤にかけると交換留学に行くタイミングを失したので短期しか行けないかなと思う
- ・世界に目を向けなければならないことは変わらないから
- ・もともと留学したい気持ちがあり、ある程度リスクは仕方がないと考えているため
- ・海外に行くことでしか身に付かない経験や学びがあると思うから

「どちらともいえない」

- ・勉強分野に関わる留学をしてみたいが、まだ計画を立てていない
- ・いつから海外渡航が可能になるのか、また修論や就活との兼ね合いにもよるため
- ・学年が上がってしまい研究で忙しくなるのを懸念しているため
- ・行きたいと思うが、卒業を控えている学年なので難しい状況だから

「あまりそう思わない」

- ・いつ収束するのか分からないので、計画を立てるのは困難であるから
- ・収束後となると既に大学院生となっており、研究に支障が出ると考えられるため
- ・今年留学予定だったがそれが無くなり、卒業を伸ばすつもりもないため大学在学中の留学への気持ちはなくなった

「全く思わない」

- ・今年度で卒業となるから

気持ちに変化があったと答えた学生が半数を占めた一方で、収束後に留学に行きたいと答えた学生は、迷っている学生も含むと 84.8%であった。強く思う・そう思うと答えた学生は、学生の中に留学に行きたい、行きたい気持ちに変化はないため、と答えた学生が多かった。あまりそう思わない・全くそう思わない、を選択した学生の理由は卒業時期、就職活動への懸念が殆どを占めており、新型コロナウイルスの影響がなければ留学していた、などの記述から改めて新型コロナウイルスが学生に与えた影響の大きさが伺える。

3.2 オンライン留学に関する意識

次に、オンライン授業に関して Q6.「海外大学が提供しているオンライン講義やディスカッションに参加する留学と現地に実際に渡航する留学では得られる物は同じだと思いますか」の回答を紹介する（下線筆者）。

表3 海外大学が提供しているオンライン講義やディスカッションに参加する留学と現地に実際に渡航する留学では得られる物は同じだと思いますか (Q6.)

	人数	%
強くそう思う	4	1.9
そう思う	2	0.9
どちらともいえない	16	7.6
あまりそう思わない	107	50.7
全くそう思わない	82	38.9
合計	211	100.0

出所：筆者作成

オンライン授業と実際の留学を比較した質問では、得られるものと同じか、について89.6%の学生がそう思わない、全くそう思わないに回答した。どちらとも言えないと回答した学生も、学ぶ内容は同じだが雰囲気は伝わらない、などと答えており、オンライン授業と実際の渡航とは異なるものと捉えている学生がほとんどであることが判明した。特に今回は短期留学、交換留学経験者（コロナウィルスの影響のため途中で切り上げた学生も含む）が含まれているため、実際に自身が受けた対面での講義とオンライン講義を比較し回答していることも興味深い。

「そう思う」

- ・ コンテンツは同じなので、専門知識等については同等のものが得られると思う。しかしながら、肌で感じることは難しいのではないかな。

「どちらともいえない」

- ・ 話す内容にほぼ変化はないと思われるから
- ・ 中身は学ぶものは同じだと思うが、その土地の雰囲気などを直接触れて学ぶものが変わったりするだろうから。
- ・ 言語力はある程度つくかもしれないけれど、講義の関連な雰囲気などは伝わらないかな、と思う

「あまりそう思わない」

- ・ 講義だけでは十分とは言えず、実際に現地で生活することに留学の意
味があると感じる

- ・専門知識などは身につくだろうが、人脈など現地に行ってみなければ築けないものがあると思うから
- ・コロナで緊急帰国後、実際にオンライン授業を受けていたが、実際に感じる雰囲気や授業以外でのコミュニケーションは違うものだと感じた。
- ・オンラインでももちろん語学の勉強や海外の授業スタイルを経験することは可能だとは思いますが、留学の意味はこれらに限ったものではなく、現地の学生との交流であったり、異文化学習であったり、留学することで初めて得られるものがあると考えるから

「全くそう思わない」

- ・オンライン講義は必然的に教師と生徒、生徒同士の距離をあけてしまうため、現地での授業と大きく異なるものである。また、留学で経験できるのは講義のみでないことを踏まえると、オンライン講義・ディスカッションのみの場合、留学の価値ある要素が多く不足している
- ・自分が経験した留学では、学問の面で得られた知識以外にも、現地の生活習慣や現地の人々の考え方も感じる事ができたが、オンライン講義やディスカッションでは細かいところまでは分からないため
- ・オンラインによる講義で英語に触れることはできるが、実際に海外に滞在して現地の文化に触れることとは別物
- ・確かに、オンラインでも学べること（授業内容）は同じかもしれませんが、そこに付随する、授業内容とは直接的には関連しない、研究室内でのコミュニケーションや、それによるアイデア創発の可能性等が考慮されていないように思う
- ・実際にオンライン講義を受けてみたが、やはり実際の留学で培うような対人コミュニケーションや自分の目で見た肌で感じて学習するのは感じるものが違った
- ・言語を習得するという意味であれば多少意味はあるのかもしれないが、オンラインでやるものと実際に渡航する留学は全くの別物だと思う

3.3 国内での留学類似体験に関する意識

続いて、渡航が出来ない中、今後国内・学内で増加する可能性のある留学類似体験と実際の渡航との比較結果を Q11 「国内にて実施される共修授業や共同生活など送るインターナショナルキャンプ等の類似体験と渡航す

る留学では得られる物は同じだと思いますか」の回答をもとに紹介する。

表4 国内にて実施される共修授業や共同生活など送るインターナショナル
キャンプ等の類似体験と渡航する留学では得られる物は同じだと思いますか
(Q11.)

	人数	%
強くそう思う	1	0.5
そう思う	16	7.6
どちらともいえない	33	15.6
あまりそう思わない	118	55.9
全くそう思わない	43	20.4
合計	211	100.0

出所：筆者作成

「そう思う」

- ・参加学生の比率（国内：留学生）や、参加者本人の取り組み方によると思う
- ・留学生多数の場合や、日本語を使わないよう徹底するなどすれば1ヶ月程度の短期留学と同等の交流経験は出来るのではないかと思う
- ・オンラインでの授業と比べて、現地への留学に近い形だと思ったから
- ・オンラインよりは直接接することができるのはプラスになると思ったから
- ・同じではないが、いい経験ができそうだと思う
- ・実際に、全く異なる文化背景を持つ人と関われる点は、現地留学と共通する点なので、同じような価値を得られると思う

「どちらともいえない」

- ・国内での擬似体験は手軽に異文化に触れられるメリットがあるが、一方で全く知らない土地に飛び込んで自分からコミュニティを築いていく渡航留学とは異なる
- ・国内での留学類似体験は、現地に渡航する留学より、手厚く準備や支援がされていると思うので、自発的に交流する力は、現地の留学と比べると弱くなると思うため
- ・コミュニケーションの上では似ているが、海外の生活や文化に触れる

のには日本では不十分

- ・実際に海外で暮らすための予行演習としていい経験になると思う

「あまりそう思わない」

- ・現地に実際に行って体験する雰囲気や気候の違い、また、その距離感などの文化の違いはやはり現地に行かないとわからないものだと思うから。
- ・留学類似疑似体験はあくまで「類似」のものであり、留学とは質的に異なる。
- ・日本に来る留学生には日本文化に興味がある、日本語が少し話せる、アジア圏の方が多いなど一定の傾向があると思うから
- ・留学生は日本に来ている時点で日本に関心があるので、異文化交流はできても本当に現地に行って全く関わりのない人達と話すことは同じにならないと思うから

「全くそう思わない」

- ・結局日本国内で行うので安心してしまい緊張感がない。留学生も日本の生活様式に合わせて生活しているため故郷の雰囲気は感じ取れないと考えられる。そのような環境で現地渡航と同じものを得られるとは考えられないため
- ・現地での留学から得られるスキルや満足感は国内体験では代替できないと思う
- ・疑似体験で出来ることには限界があると思うから
- ・語学力や異文化交流体験などを同じようなことも学ぶことはできるかもしれないが、自分がマイノリティになって留学先の文化を学んだり、その国についての理解を深めるのは留学でしかできないと思う
- ・国内と現地では環境が異なるため。周りの雰囲気や自分の意識も全く異なると思う。

留学類似体験で得られるものが渡航する留学と同じと思うかという質問に関しては、強く思う・そう思うと回答した学生はオンライン授業と同率であったが、あまりそう思わない、全くそう思わないに関しては76.3%でオンライン授業と比較すると低く、本人の取り組みによっては効果がある、留学の形に少しは近いなど物理的に人と交流する分、肯定的な意見の

方が多かった。一方で、国内での留学生との交流は、日本文化に興味がある学生が大半であることや国内での実施のため緊張感が無いなどの指摘も多く見受けられた。なお、渡航する留学と同様の専門知識、語学力、異文化適応能力が得られるかという質問について、オンライン授業及び留学類似体験についての回答は資料8から14の通りである。

3.4 オンライン留学と留学疑似体験に関する意識の比較結果

最後に、3.3で紹介した進化が進むオンライン授業の是非、そして現時点で新型コロナウイルスの収束が見えないことから留学の代替案として今後取り入れることも予想される3.4で紹介した国内での留学類似体験を、学生の回答結果を基に比較して考察する。

表5 オンライン授業と留学疑似体験の比較

	オンライン		類似体験対面		t値
	M	SD	M	SD	
全体で得られるもの	4.24	0.78	3.88	0.83	5.76***
専門知識	2.27	0.79	2.61	0.91	5.03***
語学力	2.27	0.8	2.25	0.89	0.27 <i>n.s</i>
異文化適応能力	3.49	1.01	3.09	1.02	5.84***

出所：筆者作成

注：*** $p < .001$

オンライン授業に関する質問 Q6.「海外大学が提供しているオンライン講義やディスカッションに参加する留学と現地に実際に渡航する留学では得られる物は同じだと思いますか」と、国内での共修授業などの類似体験学習に関する質問 Q11.「国内にて実施される共修授業や共同生活など送るインターナショナルキャンプ等の類似体験と渡航する留学では得られる物は同じだと思いますか」の解答を比較したところ、全体を通して得られるもの、専門知識の習得、語学力の習得、異文化適応能力の習得、すべてにおいて類似体験学習がオンライン授業と比較して「1. 強くそう思う」・「2. そう思う」の平均が上回った。t検定を実施したところ、全体で得られるもの ($t(220) = 5.76, p < .001$)、専門知識 ($t(220) = 5.03, p < .001$)、異文化適応能力 ($t(220) = 0.27, p < .001$) と 0.01%水準でいずれも有意であ

り、有意差が見られなかったのは語学力のみであった。語学力に関しては、オンライン授業に参加することでリスニングの向上、ディスカッション等への参加でスピーキング、リーディング及びライティングの課題を通して技能を伸ばすことができるため差が出なかったと考えられるが、その他の結果に関しては、少なくとも今回のアンケートに回答した学生はオンラインでの授業より国内での共修授業などの類似体験学習をより高く評価している結果となった。それぞれ同じ学生がオンライン授業と国内共修授業について「1. 強くそう思う」「2. そう思う」「3. どちらともいえない」「4. あまりそう思わない」「5. 全くそう思わない」を選んだ理由を以下に示す。

表6 Q6とQ11の回答の比較

回答者	Q6. 海外大学が提供しているオンライン講義やディスカッションに参加する留学と現地に実際に渡航する留学では得られる物は同じだと思いますか		Q11. 国内にて実施される共修授業や共同生活など送るインターナショナルキャンプ等の類似体験と渡航する留学では得られる物は同じだと思いますか	
A	全くそう思わない	直接触れ合うことで得られる経験はとても貴重なものだと考えているから。	そう思う	海外の人々と触れ合うという観点は同じだから。
B	全くそう思わない	現地の生活や友達とのコミュニケーションをできるかできないかで大きな差があると思う。	そう思う	日本でも英語を使う環境があれば海外で留学するのと近い体験が得られると思う。
C	あまりそう思わない	実際に足を運んで初めて感じる現地の雰囲気や、人との関わり合いがあると思うので、全く同じではないと思う。	そう思う	実際に、全く異なる文化背景を持つ人と関われる点は、現地留学と共通する点なので、同じような価値を得られると思う。
D	あまりそう思わない	そもそも、オンラインの授業に対して、対面と同じぐらい強いモチベーションを持つことができない。	そう思う	日本にいる学生は前提条件として、日本に興味がある学生なので、互いに仲良くなる要素が格段に揃っている。実際に海外で暮らすための予行演習としていい経験になると思う。

E	あまりそう 思わない	周りにリアルで存在している クラスメイトとの何気ない会 話が、英語学習のモチベーシ ョンや上達につながると考え ているため。	そう思う	実際にリアルで日本人以外 の人とコミュニケーション をとる機会となるため。
F	全くそう 思わない	実際にドイツへの1ヶ月の留 学やオランダへの2週間の留 学へ参加したが、目で見て肌 で感じるものが持つ価値は流 石にオンラインでは得られな いと思ったから。	そう思う	海外の方と交流を持てるこ との意味は大きいと思うか ら。

出所：筆者作成

国内共修授業について「触れ合うという観点は同じ」、「留学するのと近い体験が得られる」、「予行練習として良い経験になる」、「交流を持てることの意味は大きい」など、学生は対面にてコミュニケーションを取ること、実際の人との関わりを重視していることが自由記述からも見えてきた。

4. まとめ

本稿では日本人学生を対象に、コロナ禍における留学に対する意識の変化、オンライン授業の是非、国内で実施可能な留学類似体験、これら3つに焦点を当て調査を実施し、新型コロナウイルスが留学を希望する学生に大きな影響を与えていることが明らかとなった。多くの学生は留学に関して後ろ向きにならず、留学を完全に中止にするのではなく留学への積極的な姿勢を示しており、時期を遅らせての留学を検討したい、もしくは今後再検討したいなど、パンデミック収束後を見据えて留学を考えていることが判明した。一方で、一定の割合で卒業や大学院進学との兼ね合い、就職活動を遅らせることができないため諦める学生も存在しており、大学生の間に留学を実現させようと努力してきた悔しさも自由記述から感じとることができる。卒業を遅らせたくないため留学を見送る学生は常に存在する。しかし留学を視野に入れて卒業を1年間延ばす予定であった学生が、今年度の留学中止を受け更にもう1年延期することができないために留学を断念せざるを得ないケースも見受けられ、学生にとっての新型コロナウイルスの影響は計り知れない。

渡航して現地で学ぶ留学の代替策としてのオンライン授業については

厳しい意見が多くを占めた結果となり、オンライン授業を留学とは全く別のもので捉えている学生が大半であることが分かった。留学生教育学会が4月から5月にかけて実施したコロナウィルスと留学についての調査（中野・石倉・近藤 2020）では、回答した学生からは留学ができなくてもオンラインで学ぶ機会や国際交流イベントや英語の特別講義など、オンライン授業やイベントを期待する声が上がっており、「せめてオンライン授業により海外の大学の授業を受講したいと考えている切実な声が寄せられている」とされているが、本調査ではオンライン授業に対して肯定的な意見は少なかった。この結果は、今後の留学プログラムとして海外大学のオンライン授業導入を計画している大学にとって参考になる指標であり、オンライン授業と国内共修授業を合わせたハイブリッド型プログラムの導入など、当面は海外渡航の見通しが立たないと予測される中で学生の意見を反映させたプログラム構築が重要となるだろう。

参考文献

- Hess, Abigail, 2020, “More than 93% of U.S. college students say tuition should be lowered if classes are online”.
(<https://www.cnn.com/2020/07/27/93percent-of-college-students-say-tuition-should-be-cut-for-online-classes.html>, 2020.9.1)
- International Association of Universities, “COVID-19: Higher Education challenges and responses”.
(<https://www.iau-aiu.net/COVID-19-Higher-Education-challenges-and-responses>, 2020.10.1)
- 中野遼子・石倉佑季子・近藤佐知彦、2020「COVID-19による日本人学生の派遣留学への影響－日本人学生の声を中心に－」ウェブマガジン『留学交流』112: 44-57。
(<https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2020/07.html>, 2020.8.1)
- Witze, Alexandra, 2020, “Universities Will Never Be the Same After the Coronavirus Crisis”, *Nature*, 582: 162-4.

附属資料 アンケート回答学生の基本情報

附表 1 学生の内訳

学年	人数	%
学部 1 年	21	10.0
学部 2 年	58	27.5
学部 3 年	66	31.3
学部 4 年	45	21.3
修士 1 年	8	3.8
修士 2 年	7	3.3
博士 2 年	3	1.4
博士 3 年	3	1.4
合計	211	100.0

附表 2 学部・研究科の内訳

学部・研究科	人数	%
文学部	24	11.4
教育学部	11	5.2
法学部	29	13.7
経済学部	30	14.2
情報学部	11	5.2
理学部	12	5.7
医学部	12	5.7
工学部	45	21.3
農学部	18	8.5
人文学研究科	3	1.4
経済学研究科	1	0.5
情報学研究科	3	1.4
理学研究科	3	1.4
工学研究科	5	2.4
生命農学研究科	3	1.4
多元数理研究科	1	0.5
合計	211	100.0

附表3 海外滞在経験

	人数	%
ない	10	4.7
1週間	15	7.1
1ヶ月	101	47.9
3ヶ月	31	14.7
1年未満	35	16.6
1年以上	19	9.0
合計	211	100.0

附表4 留学の種類

	人数	%
交換留学(大学)	36	17.1
短期留学(大学)	117	55.5
交換留学(高校)	7	3.3
短期留学(高校)	19	9.0
その他	7	3.3
合計	186	84.9

附表5 COVID-19の影響で今後の留学を含む海外渡航を希望する気持ちに変化はありましたか

	人数	%
とても変化した	39	18.5
少し変化した	77	36.5
どちらともいえない	24	11.4
あまり変化していない	44	20.9
全く変化していない	27	12.8
合計	211	100.0

附表6 収束後に留学に行きたいと思っていますか
(計画をしていますか)

	人数	%
強くそう思う	76	36.0
そう思う	62	29.4
どちらともいえない	41	19.4
あまりそう思わない	26	12.3
全くそう思わない	6	2.8
合計	211	100.0

附表 7 海外大学が提供しているオンライン講義やディスカッションに参加する留学と現地に実際に渡航する留学では得られる物は同じだと思いますか

	人数	%
強くそう思う	4	1.9
そう思う	2	0.9
どちらともいえない	16	7.6
あまりそう思わない	107	50.7
全くそう思わない	82	38.9
合計	211	100.0

附表 8 海外大学が提供しているオンライン講義やディスカッションに参加することで専門知識が身につくと思いますか

	人数	%
強くそう思う	21	10.0
そう思う	134	63.5
どちらともいえない	39	18.5
あまりそう思わない	13	6.2
全くそう思わない	4	1.9
合計	211	100.0

附表 9 海外大学が提供しているオンライン講義やディスカッションに参加することで語学力が身につくと思いますか

	人数	%
強くそう思う	25	11.8
そう思う	126	59.7
どちらともいえない	40	19.0
あまりそう思わない	19	9.0
全くそう思わない	1	0.5
合計	211	100.0

附表 10 海外大学が提供しているオンライン講義やディスカッションに参加することで異文化適応能力が身につくと思いますか

	人数	%
強くそう思う	3	1.4
そう思う	42	19.9
どちらともいえない	46	21.8
あまりそう思わない	89	42.2
全くそう思わない	31	14.7
合計	211	100.0

附表 11 国内にて実施される共修授業や共同生活など送るインターナショナルキャンプ等の類似体験と渡航する留学では得られる物は同じだと思いますか

	人数	%
強くそう思う	1	0.5
そう思う	16	7.6
どちらともいえない	33	15.6
あまりそう思わない	118	55.9
全くそう思わない	43	20.4
合計	211	100.0

附表 12 国内での共修授業などの類似体験に参加することで専門知識が身につくと思いますか

	人数	%
強くそう思う	10	4.7
そう思う	109	51.7
どちらともいえない	53	25.1
あまりそう思わない	32	15.2
全くそう思わない	7	3.3
合計	211	100.0

附表 13 国内での共修授業などの類似体験に参加することで語学力が身につくと思いますか

	人数	%
強くそう思う	28	13.3
そう思う	132	62.6
どちらともいえない	29	13.7
あまりそう思わない	15	7.1
全くそう思わない	7	3.3
合計	211	100.0

附表 14 国内での共修授業などの類似体験に参加することで専門知識異文化適応能力が身につくと思いますか

	人数	%
強くそう思う	7	3.3
そう思う	65	30.8
どちらともいえない	59	28.0
あまりそう思わない	63	29.9
全くそう思わない	17	8.1
合計	211	100.0